

今回のテーマ「国際的な人の往来再開に向けた段階的措置-続報⑨」について

ビジネストラック及びレジデンストラックについては、緊急事態宣言解除まで一時停止するとされていましたが、「当分の間、一時停止を継続することが」3月18日発表になりました。詳しくは外務省 HP を確認ください。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/cp/page22_003380.html

水際対策が強化されています。

詳しくは厚生労働省 HP を確認ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00209.html

2021年3月25日 日本経済新聞 朝刊

アジア VIEW 日越の短期出張往来 不発

ワクチン接種の遅れも厳しい制限を長引かせているライター



日本とベトナム政府が2020年10月に合意した短期出張の往来再開がうまくいっていない。ベトナムに出張する邦人の入国時の14日間の隔離が不要になる新制度を創設したが、使い勝手の悪さからビジネス用途での実現事例はほとんど出ていない。新型コロナウイルスのワクチン接種も遅れ、当面は厳しい入国制限が続くようだ。

短期出張者向けの「ビジネストラック」は菅義偉首相のベトナム訪問時にグエン・スアン・フック首相との間で合意し、昨年11月から運用が始まった。ベトナムは「チャイナ・プラスワン」の最有力の投資先に位置づけられ、コロナ禍でも日本企業の技術者や幹部の訪越を求める声が強かった

行動計画など手続き煩雑

ことから、実現した例外的な措置だ。

だが、ビジネス往来の活性化にはほど遠い状況だ。複数の関係者からは「外交関連で事例はあるが、企業関連はほとんど事例を聞かない」との声が漏れる。理由は使い勝手の悪さ。滞在期間中の具体的な行き先や商談相手などを事前に届け出る必要があり、外出時に当局の職員が同行する。2日に1回PCR検査を義務付けられ、大手商社幹部は「そもそもビジネスマンが利用できる制度になっていない」と指摘する。

現在、ベトナムに入国するには定期異動による駐在でも入国手続きに1カ月以上かかる。ビジネストラックは滞在中の行動計画などより多くの書類提出が求められる。手続きがさらに煩雑という。当局から認められる可能性は乏しく、申請手続きを担う旅行会社は「客からの問い合わせが来た時点でお断りしている」と話すありさまだ。

ベトナムは世界でも厳しい防疫で知られ、国際線の定期便再開のメドもたない。外国人の不満は強いが、累積感染者を約26000人ととどめながら、20年の実質経済成長率は2・91%とプラス成長を維持する。ベトナム政府の現行政策に国民の支持が集まるなか、日本側の入国制限の緩和期待も高まっている。

ワクチン接種の遅れも政府の厳しい措置の理由だ。ベトナムで接種が始まったのは東南アジア主要6カ国で最も遅い今月8日。保健省は全人口(約9800万人)の80%の接種を目指す。順調に進んでも到達時期は22年6月ごろになるとみられる。国産ワクチンの開発次第では後ろにずれ込む可能性も指摘される。

韓国や中国からの短期出張の受け入れも進んでいない。外国人の受け入れを制限しても、一定の経済成長を維持できる見通しで「海外との往来再開は周辺国の中でかなり遅くなる」(航空業界関係者)。ベトナム観光協会のグエン・フー・トー会長は「観光客の誘致競争でも不利になる」と危機感をあらわにする。

(ハノイ=大西智也)